

神戸市とラトビア共和国リガ市の交流 40年の歩み

神戸市市長室国際交流推進部

中世の面影を残す街

神戸市は現在、8つの港町（シアトル、マルセイユ、リオ・デ・ジャネイロ、天津、リガ、ブリスベン、バルセロナ、仁川）と姉妹・友好都市提携を、2つの都市（フィラデルフィア、大邱）と親善協力都市提携を結んでいます。ラトビアの首都リガ市とは、ラトビアがソ連邦の一部だった1974年に姉妹都市となり、2014年で提携40周年を迎えました。

ラトビアは、エストニア、リトアニアと並んでバルト三国と称される人口222万人の北欧の国です。首都であるリガは人口70万人を擁するバルト三国随一の大都市であるとともに、ユネスコの世界文化遺産にも登録された



リガの街

美しい中世の街並みを残しています。

神戸市との姉妹都市提携は、ソ連対外文化友好団体連絡協議会の仲介により実現しました。その後、冷戦が終結する過程で1991年8月に独立を果たし、同年10月、神戸市で姉妹都市提携の再調印が行われました。

合唱など多彩な交流

神戸市とリガ市は5年ごとの周年事業を軸に、さまざまな分野で交流を重ねてきました。

スポーツでは、柔道、テニス、バスケット、バレーボール、サッカーなど多岐にわたりますが、

2004年の提携30周年をきっかけに始まった剣道の交流は、神戸市の剣道団体とラトビア剣道連盟との間で相互訪問・交流稽古が毎年続けられています。

文化面では、両都市を紹介する写真や物産の展示会、音楽会などを相互に実施してきました。ラトビアを含むバルト三国は合唱が大変盛んで、ソ連からの独立をめざして展開された非暴力の抵抗運動においても、歌による連帯が大きな原動力となったことが知られています。

この地域で19世紀後半から開催されている「歌と踊りの祭典」（ラトビアとエストニアでは5年に1度、リトアニアでは4年に1度）は、2003年にユネスコの無形文化遺産に登録されています。

2010年には、そうした伝統の下、世界最高レベルにあるリガ室内合唱団アヴェ・ソルと神戸市混声合唱団が姉妹合唱団提携を結び、合同公演の実施やレパートリーの共有について協力を約束しました。2013年には、神戸市混声合唱団がアヴェ・ソルの招きにより「歌と踊りの祭典」に参加しています。

「ズゼ」の物語

動物交換においては、神戸市からはニホンザル、ショウジョウトキ、タンチョウなどがリガ市に贈られました。リガ市からはチョウザメの稚魚などが贈られましたが、とりわけ神戸市民に強い印象を残しているのは、アジアゾウの「ズゼ」です。

ズゼの母親は、ブリーディング・ローンという手法でモスクワ動物園からリガ動物園に繁殖のために貸し出されたものでした。1990年、ズゼを産んで3か月後に母親が亡くなると、子どものズゼは、契約によるとモスクワ動物園に返されるはず

でした。しかし、すでにズゼを深く愛していたリガ市民は募金運動を行い、モスクワ動物園からズゼの所有権を買い取ったのです。

5年後の1995年、神戸を含む一帯を阪神・淡路大震災が襲うと、多くのリガ市民が姉妹都市である神戸の苦難に心を寄せてくれました。リガ動物園からも神戸市立王子動物園に対し必要な支援を尋ねる連絡があり、王子動物園は、「もし可能なら、被災した子どもたちを慰めるために、雄象マックのガールフレンドとしてズゼをもらえないだろうか」と伝えました。

「ズゼを知らないラトビア人はほとんどいない」と言われたほど大切にされていたズゼです。反対の声もありましたが、それでも姉妹都市の神戸のためにと、1996年、ズゼは王子動物園に贈られました。

Riga days in Kobe, Kobe days in Riga

提携40周年に当たる今年度は、“Riga days in Kobe”、“Kobe days in Riga”と題してさまざまな記念行事が両市で実施されました。

5月、「フットサルKOBEフェスタ2014」に招聘されたラトビアの強豪“FK Nikars Riga”が、3戦3勝で見事優勝を飾りました。

6月、リガ市のウシャコフス市長一行がアヴェ・ソルとともに神戸市を訪れました。12日の市長表敬では、同日未明、ズゼがマックとの間にできた雄の赤ちゃんを無事出産したことが報告され、「友好のしるし」、「奇跡的なタイミング」と両市関係者に祝福されました。続いて王子動物園とリガ動物園の間で、将来のさらなる協力を約束する協定の調印式が



動物園協力協定調印式

行われました。デザイン・クリエイティブセンター神戸（旧生糸検査所）では「バルトの宝石リガーデザイン、工芸、スポーツー」と題したりガ紹介展とツーリ

ズム・セミナーが行われました。神戸市混声合唱団とアヴェ・ソルによる合同公演は市内3か所で実施され、全公演満席となりました（合同公演は、クレアの2014年度地域国際化支援事業の助成金を活用させていただきました）。リガ出身のラトビア人監督による映画『AMAYA』の上映会では、監督と日本人の主演女優（桃井かおりさん＝リガ市名誉文化大使）によるトークショーを、抽選で選ばれた約150人の市民が楽しみました。

9月初旬には、神戸市からリガ市に久元市長、安達議長、関西日本ラトビア協会などから成る訪問団を派遣しました。ウシャコフス市長への表敬訪問、神戸紹介展の開会式、主要事業に関する視察のほか、ラトビアオリンピック委員会のヴルブレフスキス会長らと会談し、2020年東京五輪のキャンプ地として神戸をPRしました。

神戸とリガ、希望を結んで

ズゼの子どもは「結希（ゆうき）」と名付けられ、すくすくと育っています。また、今回のリガ訪問には、ラトビア出身のウナ・ヴォルコヴァさんが通訳として同行しました。ウナさんは2010年に北海道東川町の国際交流員として



ズゼの子「結希」

来日し、2014年8月からは本市の嘱託職員として勤務しています。かつて日本とラトビアの姉妹都市は神戸とリガの1組だけでしたが、2008年、当時のヴァイヴァルス駐日大使の仲介により、東川町とルーイエナ町が2組目の姉妹都市となりました。同年、大阪にラトビアの名誉領事館が開館し、関西日本ラトビア協会も発足しました。

これからもリガ市との交流を通じて、厚みを増す日本とラトビアの交流の一翼を担い、両市・両国の相互理解と発展に努めたいと思います。久元市長の通訳を務めるウナさん

